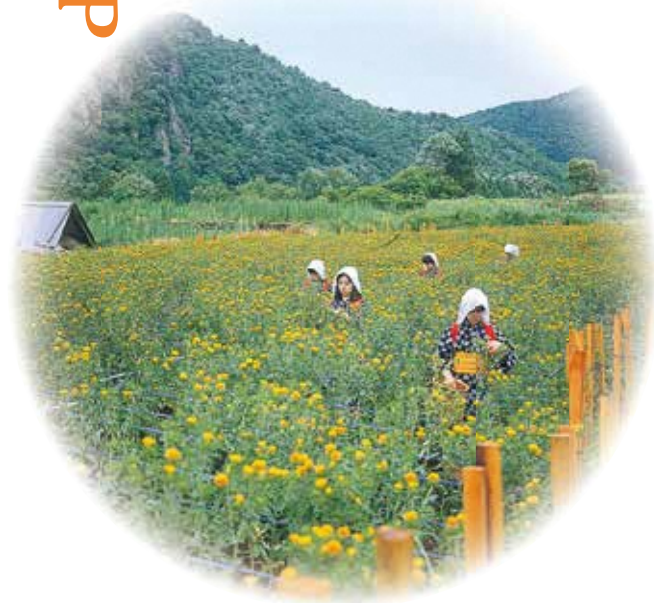


ACCESS MAP



交通アクセスのご案内

東京から	飛行機で	羽田空港	JAL 約65分	おいしい山形空港	山形空港シャトル 約35分	山形市内
	電車で	東京駅		山形新幹線「つばさ」 約2時間30分		山形駅
	バスで	東京		高速バス 約5時間30分		山形市内
	お車で	浦和本線(川口JCT)		東北・山形自動車道 約4時間20分		山形蔵王I.C
仙台から	電車で	仙台空港	仙台空港アクセス鉄道 約20分	仙台駅	仙山線 約65分	山形駅
	バスで	仙台駅		高速バス 約1時間10分		山形市内
	お車で	仙台宮城I.C	東北自動車道 約10分	村田JCT	山形自動車道 約30分	山形蔵王I.C

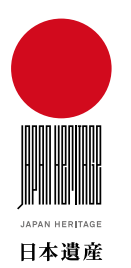
各地の紅花祭りの情報や見頃情報はインターネットでもご覧いただけます

山形県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」 [HTTP://yamagatakanko.com](http://yamagatakanko.com)

山形日和。



心が和む
紅花のみち



お問い合わせ

やまがた観光情報センター TEL.023-647-2333
やまがた広域観光協議会(山形県村山総合支庁観光振興室) TEL.023-621-8444

Q. 山形の県花ってなに？

A. それは**紅花**です。山形にとって紅花は、上方文化や経済的繁栄をもたらしてくれた花です。そのことから、1982年、山形文化を長く支えてきた紅花の功績を称えて、県の花として認定されました。

紅花の歴史

紅花の伝来

原産地はエチオピアともいわれ、エジプトからシルクロードをたどって6世紀頃に日本に伝来したといわれています。山形県では15世紀半ばから栽培が始まったとされていますが、江戸初期には質・量とも日本一の紅花産地として栄え、最盛期には全国の50～60%を山形産が占めました。「まゆはきを俵(おもかげ)にして紅紛(べに)の花」の句は、芭蕉が奥の細道の旅の途中、この地を訪れた時に詠んだものです。1689年の当時、紅花なくしては山形を語れなかったのでしょう。

山形に広まったきっかけ

気候・土壌が栽培に適していたということもありますが、山形の他に、奥州福島・奥州仙台・奥州三春・西国肥後・尾張・遠江・相模などで生産されていたので、気候・土壌が決定的な要因だったというわけではなさそうです。むしろ、最上川の舟運で山形と京都や大阪が北前船によって深く結びつき、紅花商人たちが活躍したことが、産地の拡大に繋がったといわれています。

紅花の価値

紅花といえば、「紅花染め」の艶やかな赤色を思い浮かべることが多いかもしれませんが、収穫時期の紅花畑は一面、黄色で埋めつくされます。紅花からは黄色と紅色の二色を抽出することができますが、そのうち99%以上が黄色、残りのわずか1%未満が紅色です。その赤色を抽出するには大変手間がかかり、きれいな紅色を出すのが難しいため、その原料としての紅花は貴重で高価なものとしてきました。紅花からとれるほんのわずかな「紅」の原料となる紅もちの価格は、「米の百倍、金の十倍」と謳われる高級品だったのです。

現在の紅花

明治に入ると外国からの化学染料が台頭し、紅花生産は急に衰退してしまいます。しかし戦後になって、山形県を代表する花として再び紅花が注目されはじめます。

近年は天然染料として見直されてきており、山形県内では昔ながらの製法で作られた紅もちやすり花が生産されています。



紅もち(花もち)

紅花染めなどに使用



すり花

紅花染めなどに使用



乱花

主に食品加工品に使用

まめ知識 1

はんげ 半夏ひとつ咲き

夏至から数えて11日目、半夏生のその日。まだ青々とした紅花畑にたった一輪の花が開きます。これを合図に紅花畑は日ごと鮮やかな黄色に染まります。何本植えていても、咲き始めるのはこの日たった一輪だけ。紅花の不思議です。



まめ知識 2

紅花若菜

紅花の若菜は、クセもなくおいしい食材です。近年は、新しい食材として、スーパーや産地直売所などで販売されるようになりました。若菜を天日干ししたものは「紅花(若菜)干し」といわれ、保存食として煮物の材料に最適です。



BENIBANA FESTIVAL

紅花まつり

山形紅花まつり

山形市

毎年7月中旬に、映画「おもいでぼろぼろ」の舞台のモデルになった山形市高瀬地区で開催されます。紅花のプレゼントや即売、写真撮影会など楽しい催しがたくさんあります。

◆開催時期／7月中旬

◆場所／山形市高瀬地区(高瀬紅花ふれあいセンター・高沢地区)

◆問合せ／山形紅花まつり実行委員会 TEL:023-686-3341



河北町紅花資料館べに花まつり

河北町

毎年7月上旬に紅花資料館で開催されるまつりです。紅花摘み体験や紅花の切り花展、ステージイベントが楽しめます。

◆開催時期／7月上旬

◆場所／河北町紅花資料館

◆問合せ／河北町観光協会 TEL:0237-72-3787



おくのほそ道天童紅花まつり

天童市

約7万本の紅花が見事に咲く市内上貫津紅花畑で、7月上旬に開催されます。山の斜面を埋め尽くす一面の紅花と染物体験が楽しめます。

◆開催時期／7月上旬～中旬

◆場所／龍神の里じゃがらむら上貫津紅花畑

◆問合せ／天童市経済部商工観光課 TEL:023-654-1111



白鷹紅花まつり

白鷹町

紅花を使った体験メニューや伝統工芸、地元の売店などが祭りを盛り上げます。7月中旬に町内3カ所を拠点に開催されます。

◆開催時期／7月中旬

◆場所／白鷹町内(滝野交流館・萩野大日堂・十王八卦地区)

◆問合せ／白鷹町観光協会 TEL:0238-86-0086



旧柏倉九左衛門家紅花まつり

中山町

紅花栽培や交易を生業にしていた旧柏倉家で毎年7月上旬に開催されます。紅花摘み体験会や写真コンテストも行われます。

◆期日／7月上旬

◆場所／旧柏倉九左衛門家

◆問合せ／旧柏倉家紅花まつり実行委員会(中山町教育委員会)
TEL:023-662-2235



最上川舟運による紅花交易が育んだ 紅花文化ゆかりの地を訪ねてみましょう

最上川の中流域は、氾濫原と朝霧や朝露がたちやすい気候条件で紅花栽培に適し、沿岸の集落は紅花の主要な産地となりました。また、紅花は最上川舟運により上方に運ばれ、豊かな文化がもたらされました。紅花交易で栄えた地に行ってみませんか。



1 河北町紅花資料館 河北町



江戸時代、紅花商として財を成した旧堀米邸を紅花資料館として復元した施設です。武者蔵や古文書や当時の装飾品、享保雛等の展示をはじめ、紅花染めの体験や古民家で地元の農産物を使ったお食事をいただくこともできます。

河北町谷地戊1143 ☎0237-73-3500 営 9:00～17:00(3月～10月)、9:00～16:00(11月～2月)
休 毎月第2木曜日(祝日の場合は翌日) 12月29日～1月3日 料 大人400円、高校生150円、児童生徒70円

紅花染め体験や
おいしい食事が
楽しめます。



2 林家舞楽 河北町

山寺建立とともに上方より伝えられた舞楽です。谷地八幡宮神職林家により一子伝で1100余年にわたり伝承されています。9月の谷地八幡宮例大祭(谷地どんがまつり)において、厳かに奉奏され、その時に紅花の衣装が用いられます。

谷地八幡宮 河北町谷地224 ☎0237-72-2149
時 どんがまつりに開催(敬老の日を含む3連休)

3 大石田町立歴史民俗資料館 大石田町

齋藤茂吉や洋画家 金山平三、日本画家 小松均など、大石田町にゆかりのある文学者や芸術家の作品をはじめ、江戸時代後期に描かれた「大石田河岸絵図」など、最上川舟運と紅花を積み出した大石田河岸に関する資料や雛人形等を収蔵・展示しています。

大石田町大石田乙37-6 ☎0237-35-3440
営 10:00～16:30
休 毎週月曜日(祝日は開館・祝日の翌日)、12月29日～1月3日、展示替えの休館
料 大人200円、高校生・大学生150円、小中学生100円、障がい者手帳お持ちの方及び付き添いの方2名まで無料

4 おばなざわ花笠まつり(尾花沢まつり囃子) 尾花沢市

毎年8月27日・28日に開催される「おばなざわ花笠まつり」は、大正8年灌漑用水の「徳良湖」の築堤の際に唄われた歌が「花笠音頭」の元歌となり、スゲ笠で振りを付けたのが始まりと言われています。また、花笠まつりの初日に行われる諏訪神社祭。そのまつり囃子は、紅花交易が盛んだった頃にもたらされた宮廷の流れをくむ組曲です。諏訪神社の遷宮式祭礼の一つとして奉納されています。

尾花沢市商工観光課 ☎0237-22-1111



5 芭蕉、清風歴史資料館 尾花沢市

旧丸屋・鈴木弥兵衛家の店舗と母屋を復元した貴重な建物です。紅花を扱う商人で尾花沢の豪商として知られた鈴木清風と芭蕉に関する貴重な資料の収集、保存、展示を行っています。

尾花沢市中町5-36 ☎0237-22-0104
営 9:00～16:30(3月～10月)、9:30～16:30(11月～2月)
休 毎週水曜日、展示替え時、12月28日～1月4日
料 大人210円、学生100円、中学生以下無料、障がい者手帳お持ちの方大人100円

6 最上三難所舟下り 村山市

最上川三難所(暮点・三ヶ瀬・隼)は流れが急で、岩盤がむき出しになっている所が多く、最上川舟運が栄えていた時代は、船頭たちに最も恐れられていた難所でした。現在は、多くの方がスリルのある舟下りを楽しんでいます。

村山市大字稲下金谷1110-2 ☎0237-56-3535
営 出航時間/10:00、11:50、14:00、16:00(1日4便)
(11月11日～4月30日の期間は10:00のみの1便となります。)
料 大人2,000円、子ども1,000円(団体割引有)



芭蕉が紅花の句を詠んだ旧山寺街道、 縁結びの観音様を訪ねてみましょう

芭蕉は紅花畑を見て、眉についた白粉を落とす女性の姿を思い描いて詠んだ「眉掃きを佛にして紅粉の花」の句碑、縁結びの観音様として親しまれている若松寺、厳かに時を刻む慈恩寺を巡ってみるのはいかがでしょうか。



1 本山慈恩寺本堂 寒河江市

インドの婆羅門僧正が聖武天皇に奏上後、天平18年(746年)に勅令を得て開山。本堂は元和4年(1618年)に山形城主最上氏により再建されました。堂内に秘仏33体が安置されており、頭を入れると若返るという鉢が置かれています。5月5日には、紅花衣装をまとった慈恩寺舞樂が奉納されます。

寒河江市大字慈恩寺地籍31 ☎0237-87-3993 営 8:30～16:00 料 500円



多くの文化財
があります。

2 若松寺 天童市

和銅元年(708年)に開山した霊場です。室町時代に入り観音信仰が栄え、最上三十三観音の第一札所霊場として隆盛を極めました。「縁結びの観音様」として有名であり、毎年多数の巡礼者が訪れています。

天童市大字山元2205-1 ☎023-653-4138



3 龍神の里・じゃがらむら 天童市

県内産のそば粉を使い、朝から打ったそばを提供しています。天ぷらも地元産の新鮮な野菜を使っています。また、生芋から加工して作った手作りのこんにゃくも期間限定で販売しております。近くの花畑に花が咲く7月上旬ごろ紅花まつりが開催されます。

天童市貫津1374-1 ☎023-653-0015
営 11:00～14:00(水除く、月～金) 11:00～14:30(土、日)
休 毎週水曜日

4 私の部屋 天童市

綿ハンカチ、花瓶数々、タペストリー、絹スカートなどの素材に、輪ゴムや割り箸、将棋駒でしばり模様や枝染めのように模様を作り、染め上げます。「紅花染め」は通年でできますが、「紅花すり初め」は紅花開花時期限定となっています。

天童市本町1-1-2 天童駅前パルテ1階 ☎023-654-5045
営 10:00～18:00 休 第3月曜日



5 将棋むら天童タワー 天童市

おみやげ品や特産品の販売、お食事をいただける施設です。また、大判のローンハンカチに紅花染料で染めていただき、その場で持ち帰っていただく紅花染教室やそば打ち体験教室、陶芸教室等の様々な体験教室もあります。

天童市久野本1273-2 ☎023-653-3222
営 8:00～18:00(ドライブイン)

6 芭蕉の句碑 天童市

芭蕉が紅花を題材として「眉掃きを佛にして紅粉の花」の句を詠んだ天童市上荻野戸の芭蕉おもかげの丘に句碑があります。芭蕉は、紅花の花が化粧の時に使う刷毛(眉掃き)の形に似ていることから眉についた白粉を落とす女性に姿を思い描いたと言われております。

天童市上荻野戸地内



7 古澤酒造資料館 寒河江市

もともとは、紅花を扱う舟運業を営んでいました。天保7年(1836年)に創業した酒蔵で、資料館には、昔ながらの酒造りの道具等を展示しています。

寒河江市丸内3-5-7 ☎0237-86-5322
営 10:00～16:00
休 年末年始

寒河江市丸内3-5-7 ☎0237-86-5322
営 10:00～16:00
休 年末年始

ちょっと寄りみち【産直センター】 紅花切花、紅花若菜等取り扱っています。



アグリランドひな産直センター
紅花切花、紅花茶、紅花染めセットなど
紅花関連商品の販売
河北町谷地字下野281 ☎0237-85-1610
営 9:00～18:00



アグリランド産直センター
紅花切花の販売
寒河江市寒河江久保2 ☎0237-84-7888
営 9:00～18:00(4月～12月)
9:30～17:30(1月～3月)
休 年始



よつぱぽぽら 東根市
紅花切花の販売
東根市中央東3-7-16 ☎0237-41-0288
営 9:00～17:30(6月～11月)
9:30～17:30(12月～5月)
休 1月1日～1月3日



どりのいむ農園直売所 白鷹町
紅花切花、紅花若菜、紅花若菜干、紅花入り漬物・菓子などの販売
白鷹町畔群9053-30 ☎0238-85-2922
営 9:00～18:00

ちょっと寄りみち【グルメ①】 紅花を使用したおいしい食べ物はいかがですか？

創業文久年間 文四郎麩 東根市
紅花入り ふ餅 486円(税込)

小麦に含まれるグルテンの力でふっくらもちもちに蒸した「紅花入り ふ餅」。六田地区で昔から伝わる懐かしい伝統の味です。



東根市六田2-2-20 ☎0237-42-0117

壽屋寿香蔵 東根市
紅花染めたくあん 453円(税込)

天日でじっくり干した秋大根を漬け込んだ本格のたくあんです。たくあんの黄色は山形県の花「紅花」を使って染めています。



東根市本町6-36 ☎0237-42-0173 営 9:30～18:30

べに花茶 1袋 300円(税込)

5～6年前から販売しております。紅花は昔から冷えに効く血行を良くする薬などに利用されていることからお茶にしました。また、乾燥させた紅花の種を焙煎することにより、香ばしく飲みやすくなっております。

販売元:河北べに花会
取り扱い先:河北町紅花資料館売店、アグリランドひな産直センター



紅花栽培の発展に寄与した山寺、紅花で栄えた豪商、豪農の屋敷を巡ってみましょう

山寺の開祖慈覚大師等によって伝えられたと言われている紅花栽培。江戸時代に紅花で財を築いた豪農、豪商の屋敷が今も残っています。この地を巡って古の紅花を想像してみるのはいかがでしょうか。



1 紅の蔵 山形市



かつて紅花商人として栄えた長谷川家の蔵屋敷を活用した施設です。観光情報はもとより、旬産旬食をテーマとした食の発信、地産特産品や農産物の販売、初夏には紅花をテーマとした企画展示が行われています。

山形市十日町2-1-8 ☎023-679-5101 営店舗によって異なる 休1月1日

産直、おみやげ、食事などが楽しめます。



2 宝珠山立石寺(山寺) 山形市

山寺(宝珠山立石寺)は、慈覚大師円仁が貞観2年(860年)12月、清和天皇の勅許を得て創建した古刹と伝えられています。紅花栽培に深く関わり、比叡山との縁故から近江商人を惹きつけ、紅花交易の発展を加速させました。元禄2年(1689年)、芭蕉が弟子の曾良とともに訪れ、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の名句を「奥の細道」に残しています。

山形市大字山寺4456-1 ☎023-695-2843 料入山料／大人300円、中人(中学生)200円、小人(4歳以上)100円

3 立石寺中堂 山形市

延文元年(1356年)初代山形城主・斯波兼頼が再建した入母屋造・5間4面の建物で、ブナ材の建築物では日本最古と言われています。室内には、慈覚大師作と伝えられる木造薬師如来坐像が安置され、伝教大師が比叡山に灯した灯を立石寺に分けたものを織田信長の焼き討ちで延暦寺を再建したときには逆に立石寺から分けたという、不滅の法灯を拝することができま。



料 参拝料／200円



4 旧柏倉家・丸左衛門 中山町

紅花交易で財を成した江戸時代の大庄屋、屋敷が2,300坪、建物が360坪の柏倉家の大豪邸です。周辺に多くの分家があり、散歩しながら、回ってみるのも良いと思います。(県指定有形文化財)

中山町岡8 ☎023-662-2235 (中山町教育委員会教育課)

5 山寺芭蕉記念館 山形市



芭蕉が「奥の細道」の旅で山寺を訪れてから300年目、同時に山形市ができてから100周年を記念して平成元年に建てられました。記念館には、芭蕉直筆の資料の展示や

紅花屏風を収蔵し、喫茶コーナーで抹茶も味わえます。

山形市大字山寺字南院4223 ☎023-695-2221 営9:00～16:30 休不定休、年末年始、展示替のため臨時定休日 料大人400円、高校生以下無料

6 山形花笠まつり 山形市

毎年8月5日から7日まで開催される山形花笠まつりは、威勢のいい掛け声と花笠太鼓の勇壮な音色の中、山車を先頭に、あでやかな衣装の踊り手が花笠を手に華麗な群舞を繰り広げる祭りです。花笠は、紅餅をむしろに広げて干す様子を表しており、踊り手が練り歩くさまは一面紅花畑が広がる光景を再現しています。



紅花生産日本一、「日本の紅をつくる町」で様々な体験をしてみましょう

紅花の生産日本一を誇る「日本の紅をつくる町」白鷹町では、紅花染めはもとより、和紙すき、陶芸など様々な体験ができます。また、紅花が咲いている時期には紅花摘み体験もできます。



白鷹町



紅花開花時期には花摘み体験ができます。

1 紅花の館

のんびりと農山村風景の中で田舎暮らしが体験宿泊できる会員制農家山荘です。体験メニューのみも可で、紅花染め、ドライフラワーづくり、リースづくり、紅花酒づくり等の体験の他、紅花の開花時期には紅花摘み体験もできます。

白鷹町大字十王1707-1 ☎0238-85-1883 営9:00～17:00 休不定休

2 小松織物工房 白鷹町

全国でも珍しい「板締緋染め」という技法で緋染めを行っています。その技法は経済産業大臣指定の伝統工芸とされています。昔は織の工程を農閑期の農家に依頼していましたが、現在では染めから織りまでのすべての工程を工房で行います。約130年以上にわたり独特の技法を受け継いでいます。



白鷹町十王2200 ☎0238-85-2032 営10:00～16:00 休日・祝日

3 山峡紅の里 白鷹町



紅花をより身近なものとして感じてもらうために紅花関連商品の展示、紅花体験等行っている施設です。紅花まつり開催時には会場の一つとなり、大変きれいな紅花をご覧いただけます。

白鷹町大字十王4068-2 ☎0238-85-2102 営9:00～17:00 休土日祝日(予約があれば体験可)



4 深山和紙振興研究センター 白鷹町

深山和紙は楮を原料とする手漉き和紙です。その起源は約400年前で、上杉藩の御用紙として用いられました。当センターでは、手漉き和紙体験や和紙絵作成などを行うことができます。

白鷹町大字深山2527 ☎0238-85-3426 営9:00～17:00(体験は10:00～17:00) 休不定休

5 白鷹人形研究会 白鷹町

深山和紙を使った、和紙花、結びびな、まるちゃん人形を作る体験ができます。

白鷹町大字深山1966 ☎080-2814-6968 営5月～10月:水曜・日曜 10:00～15:00 11月～4月:水曜 10:00～15:00



ちょっと寄りみち【おみやげ】河北町紅花資料館となりの物産館をのぞいてみました



ハンカチ 大 1,600円(税抜) 小 1,300円(税抜)



スカーフ 3,600円(税抜)～



チーフ 1,320円(税抜)



ネクタイ 12,800円(税抜)



口紅 12,800円(税抜)～



ティッシュケース 800円(税抜)



卓球用紅花スリッパ 1,700円(税抜)



紅花スリッパ 1,300円(税抜)～

※この他にも紅花に関するお土産があります。

ちょっと寄りみち【グルメ②】人気の山形名物をぜひお召し上がりください

漬物処 やたら漬本店 山形市

おみ漬 小 300円(税抜) 大 500円(税抜)

おみ漬は青菜を細かく刻み、他の野菜とともに漬けたものです。余った青菜等を無駄にしない手法として近江商人が漬物にした「近江漬け」が訛って「おみ漬け」となったものです。



山形市旅籠町2-1-5 ☎023-634-4108 営9:00～19:00

乃し梅本舗 佐藤屋 山形市

乃し梅 600円(税込)～

江戸時代、紅花染めに用いるために多く栽培された梅の実を活用し、試行錯誤の末にできた元祖山形の名物菓子です。



山形市十日町3-10-36 ☎023-622-3108 営8:30～18:00

和菓子ぬまざわ 白鷹町

羊羹 日本の紅(あか) 850円(税抜)

白鷹町名産の紅花を使用した色鮮やかな羊羹です。紅色羊羹には紅花の天然色素、黄色羊羹には紅花の花びらを練り込んでいます。



白鷹町大字荒砥町716-4 ☎0238-85-2374 営8:30～18:30